

第7期古賀市介護保険運営協議会（令和2年度第2回）議事録

標題の件について、下記のとおり実施したので、古賀市介護保険運営協議会規則（以下「運営協議会規則」という。）第6条に基づき議事録を作成する。

1. 日時 令和2年6月19日（金）19時00分から20時30分まで
2. 場所 サンコスモ古賀 201・202研修室
3. 出席委員 甲斐信博 会長、福岡綱二郎 副会長
大久保康裕 委員、高田武代 委員、加藤伊知郎 委員
酒井康江 委員、河村正彦 委員、柴田壽一 委員
前野早月 委員
4. 欠席委員 中野淳子 委員
5. 傍聴者 なし
6. 報告・議事
 - (1) 要介護認定新規申請者の状況について
 - (2) 令和元年度保険者機能強化推進交付金（市町村分）の評価結果について
 - (3) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（2018～2020年度）の評価について
 - (4) 平成31年度高齢者実態調査の結果について
 - (5) 第8期介護保険事業計画・第9次高齢者保健福祉計画「第1章 計画策定の趣旨等」について
7. 資料
 - 【資料1】 要介護認定新規申請者の状況について
 - 【資料2】 令和元年度保険者機能強化推進交付金（市町村分）の評価結果について
 - 【資料3】 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（2018～2020年度）の評価について
 - 【資料4】 平成31年度高齢者実態調査の結果について
 - 【資料5】 第8期介護保険事業計画・第9次高齢者保健福祉計画「第1章 計画策定の趣旨等」について

（参考）「第2期古賀市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」より抜粋

8. 署名（規則第6条第2項）

会長	印
会長の指名する出席委員	印

9. 会議内容

(1) 部長あいさつ

(2) 会長あいさつ

(3) 要介護認定新規申請者の状況について 資料 1

事務局より、要介護認定新規申請者の状況について説明。

【質疑】

- 分かりやすいデータであるため、継続的に提示していただきたい。

(4) 令和元年度保険者機能強化推進交付金（市町村分）の評価結果について 資料 2

事務局より、令和元年度保険者機能強化推進交付金（市町村分）の評価結果について説明。

【質疑なし】

(5) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（2018～2020 年度）の評価について 資料 3

事務局より、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（2018～2020 年度）の評価について説明。

【質疑】

- 様々な事業があるが、「第 8 期介護保険事業計画・第 9 次高齢者保健福祉計画（以下、「計画」という。）において、継続する事業、縮小や廃止する事業、又はやり方を変える事業といった分析はされているか。更に、今後 10 年間の人口動態を踏まえた上で、今後の事業展開について分析はされているか。
⇒ 現在、計画の第 2 章について検討しており、各事業の進捗状況において課題を抽出したり、また、平成 31 年度高齢者実態調査結果において見えてきた課題を含めて、今後どういった施策、事業展開をしていくかを議論している。基本的には 2025 年の地域包括ケアシステム構築に向けてこれまで計画を策定しており、方向性は変わらず引き継いでいくものと考えている。
- 認知症早期発見事業における利用者減について、健康福祉まつりの来場者が減少したことが原因とあるが、市が主催する他のイベントやまつり等と一緒に実施する等といった工夫をしてはどうかと思う。
- 介護予防サポーター事業について、どのような地域で実施されているか。
⇒ 運動と音楽を活用した介護予防活動を地域で自主的に実施してもらうため、介護予防サポーターを派遣しており、現在活動されている地域は、運動が 19 箇所、音楽が 16 箇所。また、地域リハビリテーション事業を実施されている地域が 11 箇所、ヘルス・ステーションを設置している地域が 12 箇所。また、古賀市社会福祉協議会における福祉会は 45 箇所

- あることから、各行政区には何らかの活動の場（つどいの場）があると認識している。
- 福祉会の活動を除くと、音楽や運動等の活動をしていない地域があるということか。
 - ⇒ 福祉会のみしか活動の場がない地域もあるが、福祉会から依頼を受けてサポーターを派遣することもあるため、こういった支援を通じて、活動場所が増えていくことを期待している。
 - 福祉会については、福祉員の高齢化と、なり手不足の問題があり、活動内容については、地域によって格差がある。
 - 福祉員のみならず、介護予防サポーターにおいてもなり手不足の問題があると思うが、有償ボランティアといった考え方もあると思う。なり手不足に対する対策はあるか。
 - ⇒ 介護予防サポーター事業においては、サポーターの活動に対してポイントを付与し、現金を交付しており、本市でボランティア保険にも加入している。なり手不足の問題は認識しており、検討していく必要があると考えている。
 - 若い人は仕事が忙しく、現状として若い人の協力を得ることは難しい。定年後の人が仲間ですぐにだけ助け合えるかが大切。できる人ができる範囲であれば良いと思う。

(6) 平成 31 年度高齢者実態調査の結果について 資料 4

事務局より、平成 31 年度高齢者実態調査の結果について説明。

【質疑】

- コロナウイルス感染症の影響で自分の地域の活動が中断したことで、人との交流が途絶え体重増加に繋がり、地域活動の場が健康づくりや介護予防に役立っていたかを実感したのではないかと思う。今後、「新しい生活様式」の中で、健康づくりや介護予防をどうすればよいかを考える必要がある。
- ⇒ 古賀市では外出を促進する事業を推進し、健康づくりや介護予防に励んでもらっていたが、コロナウイルス感染症の影響で外出や活動が難しくなった。そのため、自宅で気軽に取り組めるトレーニング（家トレ）を紹介したチラシを 3 月に全戸配布したり、古賀市ホームページや You tube に動画を掲載してきた。
- 高齢者の方はテレビ好きな方が多く、今のテレビは You tube が見れる機能も付いている
- ため、家トレを普及するために、そういった機能がテレビについているということを周知することもひとつの方法だと思う。
- DVD や Blu-ray に動画をダビングして配布していただければもっと手軽に取り組める。
- ⇒ 動画については、DVD にダビングしたものを、地域活動されている方等へ配布しているので、ぜひ、活用していただきたい。

○ 他県で介護予防に関する情報を市営のテレビで放送している事例があった。高齢者はその放送を見て身体を動かしている。テレビならよく見る。また、終末期のことを家族で話し合うことは大切。こういった情報もテレビで放送できれば良いきっかけになると思う。

○ アンケートの回答状況について地域差は把握できたか。

⇒ 介護予防・日常生活圏ニーズ調査については回答が一定数あり、地域分析は可能だが、在宅介護実態調査については回答が少なく地域差の把握は難しい。

○ 無回答という回答が多い点、また、回答率が50%程度だった点を含めて、どのように分析し、どう捉えたかを次回示してほしい。無回答は消極的な回答だと捉えてよいのではないか。

問3(5)の「歯みがきを毎日しているか」の問いに、「いいえ」の回答が7.8%あり、危機感がある。

○ 問13(3)の質問が「5分前のことが思い出せない」となっているが、「思い出せますか」の誤りではないか。

⇒ ご指摘のとおり。修正する。

○ 表の字がつぶれて見にくい部分があるので、8期計画に掲載するときは配慮してほしい。

⇒ 8期計画の掲載時には配慮する。古賀市ホームページにはカラーで掲載する。

(7) 第8期介護保険事業計画・第9次高齢者保健福祉計画「第1章 計画策定の趣旨等」に

ついて 資料5、参考

事務局より第8期介護保険事業計画・第9次高齢者保健福祉計画「第1章 計画策定の趣旨等」についてについて説明。

【質疑】

○ 介護予防・生活支援サービスの基盤整備については小学校区単位で取り組むとあるが、居住地によっては、自分の校区外の方が近くて利用しやすい等もあるので、融通が利くようなかたちでお願いしたい。

○ マスタープランの期間と本計画の期間が異なるが、両計画の調整が必要ではないか。

⇒ 介護保険計画期間については介護保険法で定められており、市独自で期間の変更をすることはできないが、当然、マスタープランの内容を踏まえた計画を立てていくこととなる。

○ 計画策定の背景について、コロナウイルス感染症による影響を踏まえた視点をどこかに盛り込むことができないか。新しい生活様式、スタイルへの変化が求められているので、そういう見方も必要なかと思う。

⇒ 第1章の「計画策定の背景と趣旨」にコロナウイルスという文言を記載するのは難しいが、今後の事業展開を考える中で、外出ありきの健康づくりや介護予防が難しいこともあ

り、現在実施している家トレといった視点等も併せて考えていく必要があると考えている。

(8) その他

事務局より、以下について説明。

- ・古賀市地域包括支援センター業務委託について

次回開催は7/17（金）を予定。